

## ◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

特集陳列 徳川家康没後四百年記念 徳川将軍家と京都の寺社 ― 知恩院を中心に ―

## に 似ている、に 似ていない？

じゅうようぶん かざい とくがわいえやす ざぞう ちおんいんぞう  
 重要文化財 徳川家康坐像 京都・知恩院蔵

京都の祇園の近く、東山の麓に知恩院という大きなお寺があります。このお寺自体は、鎌倉時代に法然（1133—1212）という浄土宗を開いた偉いお坊さんのお墓から出発し、法然の教えを慕う人々によって大きくなっていったものです。しかし、現在のよう規模になったのは、江戸幕府の創始者である徳川家康（1543—1616）が、母・於大の方（1528—1602）の冥福を祈るために手厚い支援を加えるようになったからです。

ですので、知恩院では、今でも、於大の方と家康、そして家康の息子で引き続き知恩院を引き立てた二代将軍・徳川秀忠（1579—1632）をととても大切にしています。

知恩院には、御影堂という一番大きな建物があります。これは、最も大切な法然の御影（肖像）をおまつりしたことからその名があり、現在のよう大きさになったのは家康のお蔭です。残念ながら、家康の命令で建てられた御影堂は寛永10年（1633）に焼けてしまい、現在の建物は家康の孫の三代将軍・徳川家光（1604—51）が寛永16年に再建したものです。このお堂の内部、正面向かって左の西の仏壇に於大の方（図2）、家康（図1）、秀忠（図3）の木で作られた肖像が3体おまつりされています。

最初に、於大の方像が作られたとされ、その後ほどなくして家康の命により家康自身の像と一緒に安置されたと伝えられています。その後、元和6年（1620）に七条仏師・康猶によって秀忠像が制作されました。この秀忠像は、本人自身の命で作られた寿像（生きていた間に作った肖像）であるせいか迫真の出来映えです。そして、この三つの像が並ぶとよく似ており、親子の血の濃さを感じることができ



図1 重要文化財 徳川家康坐像 知恩院蔵

